（個別研修）中村　まい香

研修テーマ：本人主体の支援システムの構築　～子どもの成長、発達に応じた支援計画の立案、子どもと家族を支える他職種との情報共有手段の模索～

研修地：デンマーク　ボーゲンセ、オーデンセ
研修日：5 月 28～6 月 2 日

NORDFYNS HØJSKOLE

バンク・ミケルセン財団理事長の千葉忠夫氏や NORDFYNS HØJSKOLE の Momoyo Jørgensen 副校長から、デンマークが福祉国家と呼ばれる所以や、デンマークの福祉の現場で手厚い支援が行われている理由など、様々な内容についてご講義いただいた。

障がい者作業所　Odense Værkstederne

オーデンセ市内にある障がい者の作業所を訪問した。この作業所には 200 名の利用者が在籍しており、様々なアクティビティを提供している。

アクティビティの選択は利用者が行い、例えその利用者にとって難しいものを選択したとしても、それができるようスタッフが支援しているとのことだった。

アクティビティの種類は多岐に渡り、近所のゴミ拾いなどのボランティア活動や博物館などの名所巡り、アトリエ活動や作業所のランチ作り、陶芸などの工房や裁縫、バンド活動などがある。工房で作成しているものは作業所内にある売店で販売し、制作に必要な材料を購入するための費用としている。

↑作業所内の売店

自然幼稚園　Sneglehuset

この幼稚園には 3～4 歳児と 5～6 歳児のクラスがあり、朝の 6 時半～夕方の 4 時半までの間子どもを預かっているとのことだった。幼稚園を利用する時間は保護者の都合で個人差があるそうだ。

幼稚園のプログラムには、ナイフで木工を加工するようなものや焚き火などがあり、自然の中で保育することを特色としているとのことだった。

障がい児の幼稚園　Specialbørnehaven Solsikken

この幼稚園に勤めている作業療法士のもとで研修をさせていただいた。

ここでの作業療法士は園児の評価や個別またはグループでのセラピーを行なっている。作業療法士として園児が過ごしている部屋へ行き、食事やトイレでの介助方法を確認するなど、日常的に保育士などと情報交換することができ、園児の成長を生活場面で確認することができる。

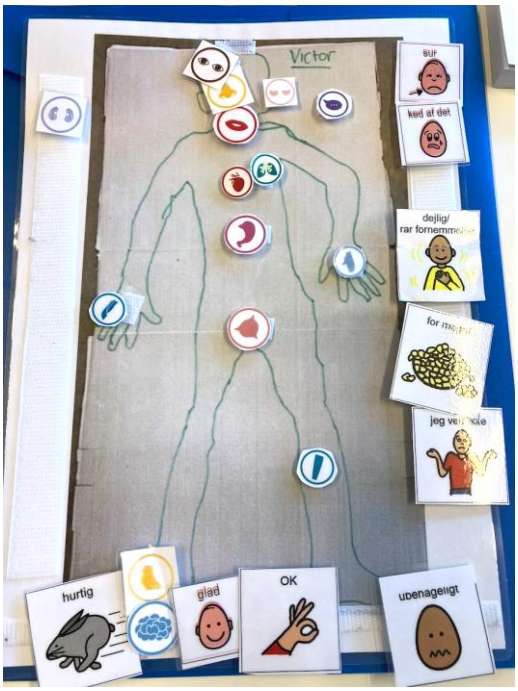
個別セラピーでは、発語がない子どものコミュニケーション方法を確立するため、写真やイラストなどを用いたやり取りの練習を見学させていただいた。

イラストの意味：

「遊びたい」「ボールで」→

グループセラピーでは、Interoception という、身体感覚を意識できるよう促すことを目的としたプログラムを見せていただいた。これは３人の子どもに対して、作業療法士１名、保育スタッフ１名が活動を提供し、脳や皮膚、眼、心臓、腹部など細かく分けた身体の各部位が、どのような時にどんな感覚がするのか、各園児に意識してもらうよう取り組んでいた。

また、この時に園児が楽しく取り組めた活動について記録しておき、小学校入学時に教員へ伝えるための資料としても活用できているとのことだった。



↑Interoception で用いるツール